

ふじみ野市少年野球連盟 大会要綱

ふじみ野市少年野球連盟

2023年11月26日

1. 試合

- ① 大会の試合イニング数は、6回戦とする。
- ② 試合時間は1時間30分とし、試合開始後1時間30分が経過した時は、新しいイニングに入らない。
- ③ 既定の回数を終えても勝敗がつかない場合、もしくは、1時間30分を経過した回の表裏を終了しても勝敗がつかない場合は、タイブレーク（特別延長戦）を行う。タイブレークは、無死一・二塁、継続打順で行う。特別延長戦を2回行っても勝敗がつかない場合は、抽選で勝敗を決する。
- ④ コールドゲームは、3回10点差、4回以降7点差がついた場合とする。
日没・悪天候等の場合、4回の表裏が終了するか、試合開始後60分を経過していれば、試合成立の原則とするが、サスペンデット・点差・大会日程等を考慮し特例をもうける場合がある。
- ⑤ 大会本部は特別継続試合を採用することもできる。試合の一時中止は30分間とし、それを経過し試合続行不能の場合は規定に基づき、試合担当審判員が大会本部と検討のうえ最良の裁定を下す。
- ⑥ 全日本軟式野球学童部の規則を適用する。

2. 試合前

- ① チームの集合は、特に定めない限り、第一試合の場合は試合開始予定時刻の30分前、それ以外は試合開始予定時刻の60分前とする。
- ② 大会会場でのバッティング練習については、軟式ボールの使用は禁止、ヘルメットを着用の上、低反発球（カラーボール等）を使ったトス・ティーバッティングを指導者の責任のもとに行う事は認める。
また、素振りについては必ず指導者が立ち会い周囲の安全を確保した上で行うこととする。
- ③ シートノックについて
 - ・シートノックは5分以内とする。但し、運営上時間を短縮したり、なくすこともある。尚、ノッカーはベンチ入りする監督・コーチが行う。危険防止のため二ヶ所ノックは禁止する。
 - ・補助員としてコーチ（背番号28・29）を認める。コーチ一人のブルペン捕手を、試合開始前までの間許可する（マスクを着用する事）。
 - ・控え選手がノッカーの近くでボールを処理するときは、ヘルメットを着用する事。
 - ・ノッカーが捕手あるいは控え選手からボールを受け取る時は、必ず選手と正対する事。
 - ・試合進行を優先するため、シートノックを省略する場合があります。

3. 打者

- ① 打者のリストバンドの使用は認めない。バッティング・グローブの使用は認める。

4. 投手

- ① 投手の投球練習は、原則、初回：7球、二回以降：3球とする。
- ② 監督がタイムを取り、投手に指示を与える場合は、試合進行を早めるため、マウンドで行う事。
- ③ 投手の投球制限は1日6イニングまでとする。但し、タイブレーク方式の直前のイニングを投げ切った投手に限り、1日最大8イニングまで投げる事が出来る。投球イニングに端数が生じたときの取り扱いについては、3分の1回（アウト一つ）未満の場合であっても、1イニング投球したものとして数える。

5. 捕手

- ① 捕手は、試合中だけでなく、シートノック中、及び、試合前の投球練習時、プロテクター・マスク（スロットガード付）・ヘルメット・レガース・ファウルカップ（確認はしない）を着用すること。
- ② 攻守交代時の臨時捕手を監督(30番)、コーチ(28・29番)が行うことを可とする。

6. 審判

- ① 審判の割り当て

- ・当該グラウンドが、2試合の会場では、第一試合を第二試合のチーム審判で担当し、第二試合を第一試合のチーム審判で担当する事。
- ・当該グラウンドが、4試合の会場では、第一試合を第二試合のチーム審判で担当し、第二試合を第一試合のチーム審判で担当し、第三試合を第四試合のチーム審判で担当し、第四試合を第三試合のチーム審判で担当する事。
- ・当該グラウンドが、3試合の会場では、第一試合を第三試合のチーム審判で担当し、第二試合を第一試合のチーム審判で担当し、第三試合を第二試合のチーム審判で担当する事。
- ・とくに大会本部から指示があった場合は、その指示に従う事。

② 審判員注意事項

- ・チーム審判員は控え審判員を含めて審判用制服を着用すること。
- ・チーム審判は、カウンター・刷毛・筆記用具を必ず持ってくること。

7. その他

- ① 選手以外でベンチに入れるのは監督（30）、コーチ（29・28）：2名、代表、スコアラーとする。代表の代行は認めない。監督・コーチは選手とシューズを含めて同じユニフォームを着用し（シューズの色は同一でなくてもよい）、代表とスコアラーは、選手と同じ帽子を着用する事。なお、メンバーのサングラス着用を認める（帽子にサングラスをかけることも認める）。
- ② 登録できる選手は9名～25名までとし、選手の背番号は0番～27番とする。6年生大会は4年生～6年生、5年生大会は3年生～5年生で編成する。但し、チーム責任で怪我をさせないように配慮していただいた上で、特別に以下の点を認める。
 - 6年生大会に参加できる6～4年生が12名未満の場合は、6～4年生の人数と合わせて12名になるまで3年生を追加登録することを認める。（当然、6～4年生だけで9人以上いる前提。つまり、6～4年生だけで9人未満の場合は大会にエントリーできない。）
 - 5年生大会に参加できる5～3年生が12名未満の場合は、5～3年生の人数と合わせて12名になるまで2年生を追加登録することを認める。（当然、5～3年生だけで9人以上いる前提。つまり、5～3年生だけで9人未満の場合は大会にエントリーできない。）
- ③ 提出した登録メンバーは大会終了まで変更できない（但し、連盟会長の許可を受けた場合はこの限りではない）。
- ④ 選手・監督・コーチは、ストッキングがきちんと見えるようにユニフォームを着用する事。なお、医療上必要がある場合を除き、ベンチに入るメンバーのサングラス着用は認めない（帽子にサングラスをかけることも禁止する）。
- ⑤ 混成チームの編成は、連盟理事会が認めれば参加を認める。混成チームのユニフォームは所属元チームのものをそのまま着用することを認める（混成チーム全体で同一にする必要はない）。
- ⑥ ルールについて
 - ボールデッドについて
投手の牽制悪送球によりボールデッドになった際は、投手板を外していたか否かに関わらず「テーク・ワン・ベース」とする。
 - デッドラインについて
デッドラインを越える前に捕球して、デッドラインを越えてしまった場合、倒れるか倒れないかに関わらず、デッドラインを越えた時点でボールデッドとなり、走者はワンベース進塁とする。
 - タイムの回数制限について
下記の通りとする。
 - ▶ 守備側タイム＝監督タイム：3回、選手タイム：3回
 - ▶ 攻撃側タイム＝3回
 なお、タイブレイク（特別延長戦）に入った場合は、守備／攻撃ともに、2イニングに1回追加する。
 <注意>野手（捕手も含む）が投手の所へ行った場合、そこへ監督が行けば双方（監督タイム・選手タ

イム) とともに1回と数える。逆の場合も同様とする。投手交代の場合は、アドバイスを与えなければ、タイム回数には含まない。

攻撃側又は守備側のタイム中に指示を与える事が出来るが、攻撃側又は守備側のタイムより長引けば1回とカウントされる。

- 申告四球について

申告故意四球を採用する。守備側チーム監督がタイムを要求し、審判員に故意四球の意思を伝えること。

- 二段モーションについて

二段モーションは可とするが、一連の動作途中で停止が認められた場合は不正投球とする。

- 野球規則 5.09(b)走者アウトについて

走者が内野手(投手を含む)に触れていないか、または内野手(投手を除く)を通過していないフェアボールに、フェア地域で触れた場合(つまり、走者がフェアボールにフェア地域で触れた場合はアウトとなる。ただし、内野手のトンネルなどミスが絡み、打球が通過した後に当たっても、アウトにならない)。

ふじみ野市少年野球連盟 大会要綱<低学年大会に関する特別事項>

1. 試合

(ア) 大会の試合イニング数は、5回戦とする。

2. 投手

(ア) 投手の投球制限は1日5イニングまでとする。但し、タイブレーク方式の直前のイニングを投げ切った投手に限り、1日最大7イニングまで投げる事が出来る。投球イニングに端数が生じたときの取り扱いについては、3分の1回(アウト一つ)未満の場合であっても、1イニング投球したものとして数える。

3. その他

(ア) 4年生大会は2年生～4年生で編成する。但し、チーム責任で怪我をさせないように配慮していただいた上で、特別に以下の点を認める。

① 4年生大会に参加できる4～2年生が12名未満の場合は、4～2年生の人数と合わせて12名になるまで1年生を追加登録することを認める。(当然、4～2年生だけで9人以上いる前提。つまり、4～2年生だけで9名未満の場合は大会にエントリーできない。)

(イ) 低学年大会ではボークは取らず、注意のみとする。(一塁への疑投等明らかなボークも含めてボークは取らない。ボークには明らかなボーク・明らかなでないボークの差はないため。)